

ヘパリンCa皮下注1万単位/0.4mL「サワイ」

自己注射法マニュアル

(在宅自己注射説明書)

監修：富山大学医学部 産科婦人科学教室 教授 齋藤 滋 先生

本冊子は、ヘパリンCa皮下注1万単位/0.4mL「サワイ」を安全に自己注射していただくためのポイントを解説したものです。本冊子をお読みいただき、分からないことや疑問に思うことがあれば、担当医や看護師に相談してください。

ヘパリンCa皮下注1万単位/0.4mL「サワイ」について

◎ ヘパリンCa皮下注1万単位/0.4mL「サワイ」

このお薬は、血液を固まらせる働きを抑えるお薬です。血液が固まりやすくなっている状態を改善し、血管内で血液が固まって生じる疾患（血栓塞栓症）を治療または予防します。

製品名：ヘパリンCa皮下注1万単位/0.4mL「サワイ」

主成分：ヘパリンカルシウム

添加物：水酸化カルシウム、塩酸

性状：無色～淡黄色澄明な注射液



次の方は原則として、このお薬を使用することはできません

1. 出血している方*¹
2. 出血する可能性のある方*²
3. 肝臓に重篤な障害のある方
4. 腎臓に重篤な障害のある方
5. 中枢神経系の手術または外傷後日の浅い方
6. 過去に本剤に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある方
7. 過去にヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) を経験したことがある方

*1 血小板減少性紫斑病、血管障害による出血傾向、血友病その他の血液凝固障害、月経期間中、手術時、消化管潰瘍、尿路出血、咯血、頭蓋内出血の疑いのある方 など

*2 内臓腫瘍、消化管の憩室炎、大腸炎、亜急性細菌性心内膜炎、重症高血圧症、重症糖尿病の方 など

◎ 在宅自己注射を希望する方へ

ヘパリンCa皮下注1万単位/0.4mL「サワイ」は患者さんまたはご家族の方が注射をすることが可能です。在宅自己注射を始めるには、担当医等から十分な説明を受け、指導のもとにトレーニングを行い、自己注射の手順を習得する必要があります。

また、いったん自己注射を開始しても、次のような場合には、途中で通院治療に切り替わる場合があります。

- ・担当医が通院治療の方がよいと判断した場合
- ・患者さんが通院治療への変更を希望した場合
- ・患者さんやご家族が自己注射を適切に実施できない場合

◎ 副作用

このお薬の使用により副作用があらわれることがありますので、使い始める前に予想される副作用について担当医からよく説明を受けてください。

これらの症状や体調の変化に気がついた場合は、すぐに担当医に相談してください。

このお薬を皮下注射した場合によくみられる副作用と対処法

副作用	対処法
注射部位の反応 (赤くなる、はれ、しこり、かゆみ など)	<ul style="list-style-type: none">● 前回注射した場所を避けて注射してください。● 正しく注射できているかどうか、このマニュアルを確認したり、担当医に確認してください。
注射部位の出血	<ul style="list-style-type: none">● 皮下に見える血管を避けて注射してください。● 注射したあとで注射した場所を揉まないようにしてください。
肝機能検査値異常 (AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇)	<ul style="list-style-type: none">● 担当医と相談してください。

重大な副作用とそれぞれの主な自覚症状

このような症状が現れた時は、ただちに医療機関を受診してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷や汗、めまい、意識がうすれる、考えがまとまらない、血の気が引く、息切れ、判断力の低下
アナフィラキシー	からだがかたくなる、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸(どつき)、じんましん、判断力の低下
出血 (脳出血、消化管出血、肺出血、硬膜外血腫 など)	意識障害、頭痛、しゃべりにくい、吐き気、嘔吐(おうと)、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、半身不随、血を吐く、腹痛、血が混ざった便、黒色便、血の混じった痰、血圧低下、手術部位からの出血、注射部位からの出血
血小板減少	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい
HIT等に伴う血小板減少・血栓症(脳梗塞、肺塞栓症、深部静脈血栓症 など) [*]	呼吸困難、意識障害、けいれん、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができてきた

^{*}HITはヘパリン皮下注射開始2週間以内に発症することが多いですが、その後に発症することもあります。上記のような症状が出た場合、直ちに医療機関を受診してください。

自己注射をはじめる前に

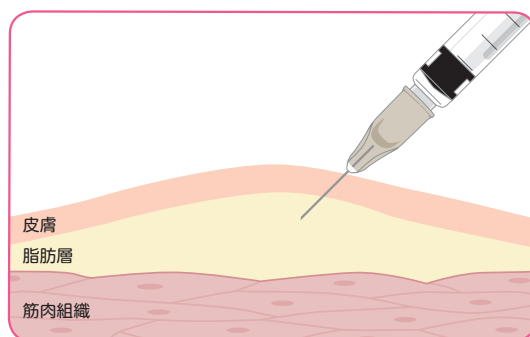
自己注射を実施するにあたっての留意事項

在宅自己注射を実施するにあたっては、以下の事項を必ず守ってください。

1. お薬を規定の方法で管理すること。
2. 決められた方法で注射すること。注射し忘れた際、決して2回分を1度に注射しないこと。
3. 定期的に受診すること。
4. 治療経過などの記録を提出し、評価と指導を受けること。
5. 異常を感じた場合や不明な点は担当医に連絡し指示を仰ぐこと。
6. 注射針や注射器などの在宅医療廃棄物は、病院へ持参し担当医等の指示に基づき、適切に処理すること。
7. 注射剤は1回使用した残りの分を再使用しないこと。毎回、新しい注射剤で注射すること。

皮下注射について

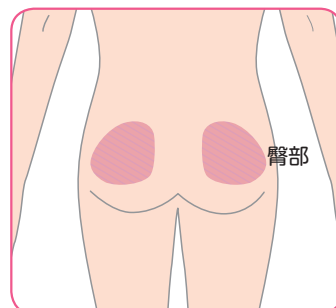
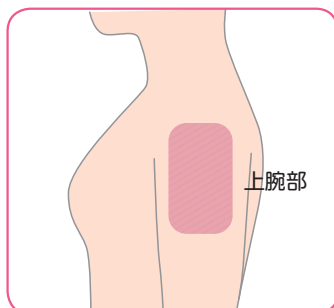
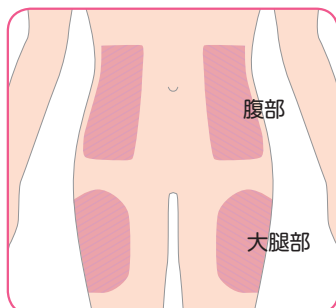
皮下注射とは、皮膚と筋肉組織の間にある脂肪層に行う注射のことをいいます。



注射部位

皮下注射に適している部位は、大腿部（太もも）、腹部などです。ご家族の方に注射してもらう場合には、上腕部、臀部などにも注射できます。

- ・注射部位は毎回変えてください。同じ部位に注射する場合は、2～3cmずらすなど前回とは離れた部位に注射してください。
- ・皮膚が赤くなっていたり、傷があったり、硬くなっている部位への注射は避けてください。
- ・へそ、ウエストライン、太ももの内側への注射は避けてください。



詳しい注射部位は、担当医の指示にしたがってください。

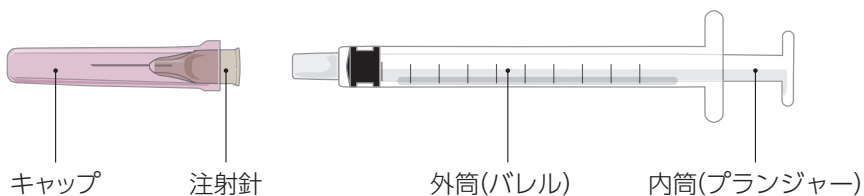
○ 準備するものの名称と確認のポイント

● ヘパリンCa皮下注 1万単位/0.4mL 「サワイ」

- ・バイアルが破損していないこと、薬液が澄明で異物がないことを確認してください。
- ・使用期限を過ぎたものは使用しないでください。



● シリンジ、注射針



- ・針の長さや太さは、患者さんの体格などによって異なります。
- ・注射針付きのシリンジを用いる場合もあります。
- ・使用直前まで開封しないでください。

● アルコール綿



● 廃棄用容器



- ・廃棄用専用容器のほか、ビンや缶などの固い容器を用いることもできます。

● 自己注射日誌

自己注射日誌に注射日時、注射部位や体調の変化などを毎回記入し、次の受診日に担当医にご提示ください。



注射の準備

① 両手を石鹸で洗う

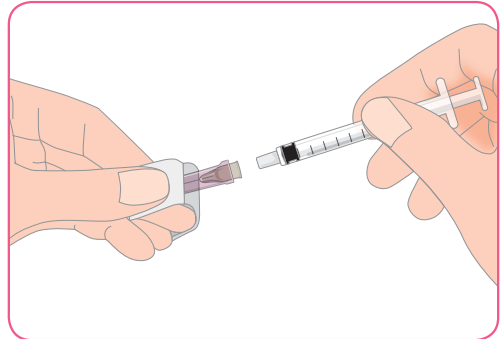
注射に必要なものを準備したら、両手を石鹸でよく洗います。
指と指の間、指先と爪の間もよく洗ってください。

② シリンジに注射針を取り付ける

※注射針付きシリンジの場合は不要です。

シリンジ、注射針を開封し、シリンジに注射針をしっかり取り付けます。

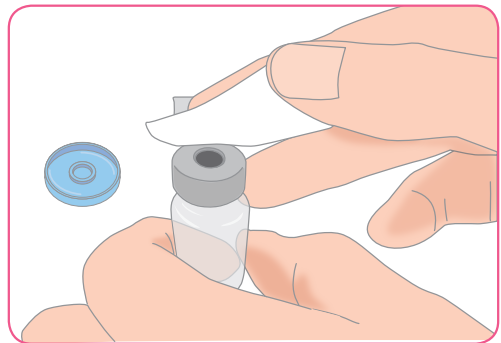
シリンジの先端、注射針の接続部に
触れないように気をつけてください。



③ バイアルのキャップを外してゴム栓を消毒する

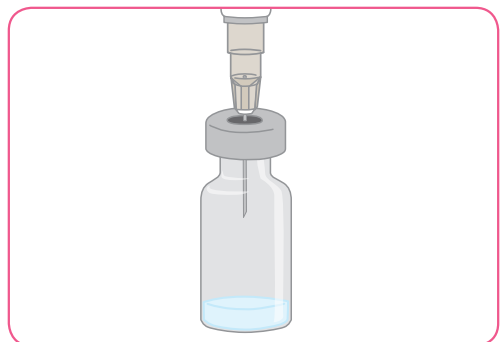
親指の腹でキャップを外して、ゴム栓をアルコール綿で拭いて消毒します。

消毒したゴム栓には手を触れないよう
に気をつけてください。



④ 注射針をゴム栓に刺す

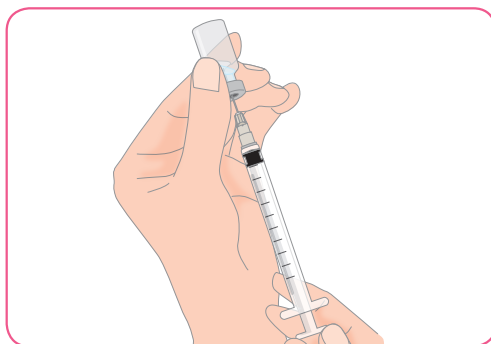
注射針のキャップを外し、プランジャーを引いて必要な薬液と同量の空気を入れておきます。バイアルのゴム栓中央に垂直に注射針を刺し、プランジャーを押しバイアル内に空気を入れます。



⑤ 薬液を吸い取る

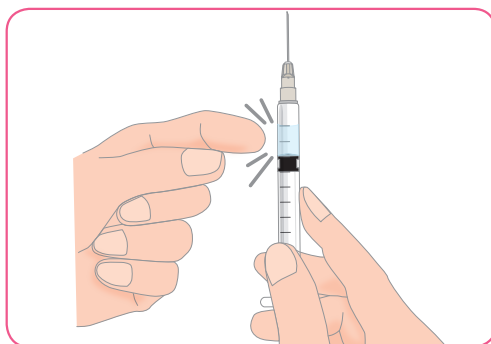
注射針を刺したままバイアルをさかさまにして、薬液をシリンジにゆっくり吸い取り、その後バイアルから針を静かに抜きます。

この時、必要な量より少し多めに取り
ます。



⑥ シリンジの上部に気泡(空気)を集める

プランジャーを少し引き、シリンジを軽く指ではじいて薬液中の気泡をシリンジの上まで移動させます。



⑦ 決められた用量にあわせる

医師に決められた用量になるまでゆっくり押し上げ、針先まで薬液を満たします。

開封後の使用は1回限りとし、薬液が余
っていても再使用はしないでください。

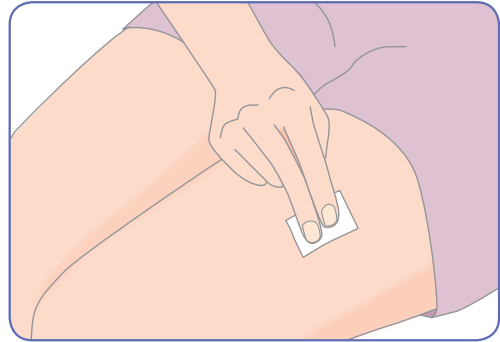
容量と単位数

容量	単位数
0.1mL	2,500単位
0.2mL	5,000単位
0.3mL	7,500単位
0.4mL	10,000単位

注射の手順

① 注射部位を消毒する

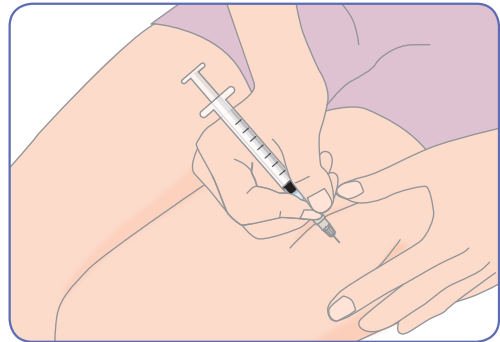
注射部位をアルコール綿で拭いて消毒し、十分に乾燥させます。注射するまで消毒した部位には触れないようにしてください。



② 針を刺す

片方の手で注射部位を軽くつまみ、つまみあげた皮膚の真ん中に少し斜めに針を刺します。

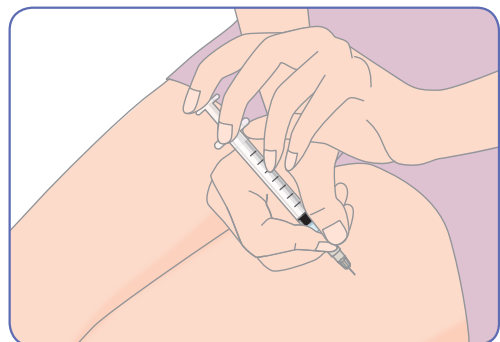
血管が見えている部位は避けて注射してください。注射針を刺した時に激痛を感じたり、血液が逆流した場合、すぐに針を抜き、部位を変えて注射してください。



③ 注射液を注入する

プランジャーをゆっくり最後まで押しきって、薬液を注入します。

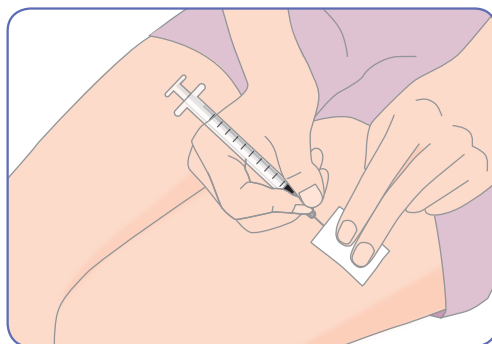
プランジャーをわずかに引いて、血液の逆流が見られないことを確認してから薬液を注入してください。



④ 針を抜いて、注射部位を消毒する

注入し終わったら、ゆっくり注射針を引き抜きます。注射した場所を新しいアルコール綿で軽く押さえます。

注射したあとで、注射した場所を揉まないようにしてください。注射部位があとから痛くなったり、赤くなったり、硬くなったりした場合は、担当医に連絡してください。



⑤ 注射器および注射針の廃棄

使い終わった注射器と注射針は、医療機関の指示にしたがって、廃棄用容器等に廃棄してください。

全て終了したら、もう一度両手をよく洗います。

一度使った注射器と注射針は、絶対に再使用しないでください。



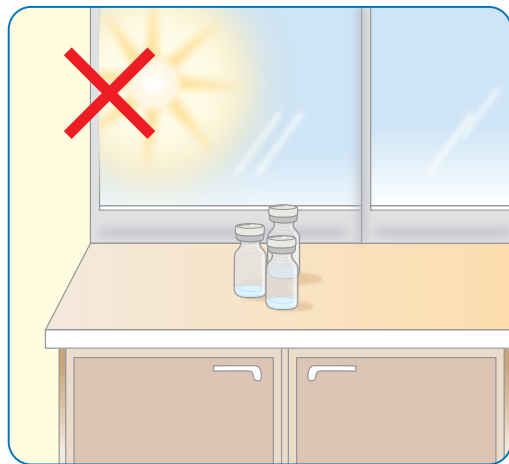
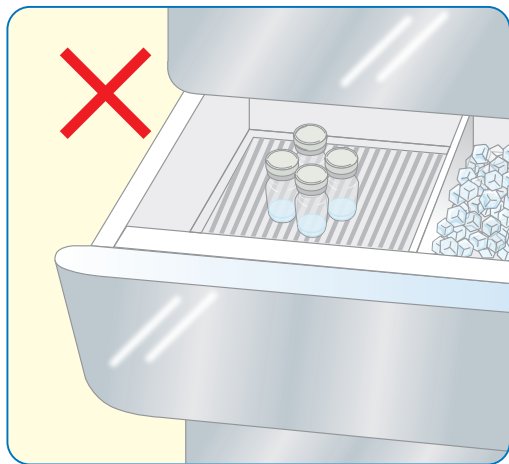
⑥ 自己注射日誌の記載

自己注射を行ったら、自己注射日誌に記載しましょう。

保管方法と廃棄について

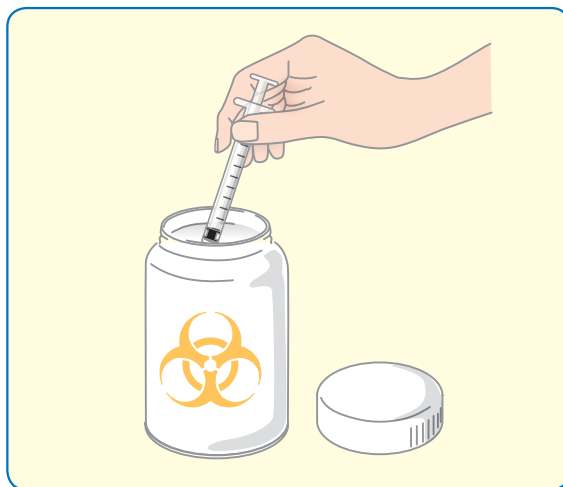
● 保管方法

- ・このお薬は未開封のまま、光と湿気を避けて室温(1～30℃)で保管してください。冷凍庫(フリーザー)などに入れて、凍結させないでください。高温にさらしたり、温めたりしてはいけません。
- ・お子様の手の届かないところに保管してください。



● 廃棄方法

- ・使い終わった注射器および注射針は、廃棄用容器(ない場合はビンや缶などの固い容器)に入れて、医療機関の指示にしたがって廃棄してください。(医療機関や自治体により廃棄方法が異なる場合があります。)
- ・廃棄用容器は常にお子様の手の届かないところに保管してください。



Q&A

Q. 注射部位から出血した場合はどうすればよいのでしょうか？

A. 止血するまで2～3分間押さえて圧迫してください。
ただし、出血が続いたり、痛みが続くような場合には担当医にご相談ください。

Q. 注射したあとが痛くなったり、赤くなったり、硬くなったりした場合には、どうすればよいのでしょうか？

A. これらの症状が現れた場合は、担当医に相談してください。原因としては、同じ部位への注射の繰り返し、冷たい薬液の使用、注射の際に手が震えている、誤った注射の方法などが挙げられます。
正しい注射の方法により症状を予防できる場合がありますので、注射の方法を再度確認しましょう。

Q. 風邪をひいているときに注射をしてもよいのでしょうか？

A. 風邪をひいた場合は、担当医に連絡して指示を受けてください。

Q. ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)の主な症状は？

A. 主なものは、呼吸困難、意識障害、けいれん、片側のまひなどです。このような症状が現れた時は、ただちに医療機関を受診してください。

Q. 注射し忘れてしまった場合、どうしたらよいのでしょうか？

A. 注射を忘れた場合は、担当医に連絡して指示を受けてください。決して2回分を一度に使用しないでください。

Q. 毎日同じ時間に注射しなければなりませんか？

A. 注射する時間が多少変わっても問題はありません。ただし、安定した効果が得られるように、また、注射を習慣づけるという意味でも、同じ時間帯での注射をお勧めします。

Q. 自己注射をやめたいのですが？

A. 希望すればいつでも通院治療に切り替えることができます。
担当医にご相談ください。

Q. 薬液が余った場合、あとで使用してもよいですか？

A. 一度使用したあとは、薬液が余っていても再使用はしないでください。

医療機関名